

## アートプロボノとは

- アート領域（美術、演劇、音楽、舞踊、伝統芸能、大衆文化等）において、各人が持つ専門的なスキルを活かして行うボランティア活動

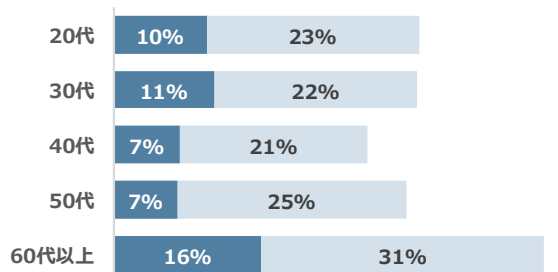
## なぜ文化庁がアートプロボノを推進するのか

- 文化庁では、2020年東京大会に向けて、多様な主体による文化プログラムの実施やボランティアへの参画を促進している。
- また、文化団体のマネジメント能力の一層の底上げも図っていく必要がある。
- 昨年度実施した文化庁「専門人材による文化団体における社会貢献活動調査」によりプロボノワーカー側や文化団体側の双方にアートプロボノへのニーズがあることも検証済み。

## 【プロボノワーカー】

- プロボノを行っている・今後行いたいと考えている方会社員・役員、定年退職者は3割を超える。
- 文化・芸術に係る活動を支援したいという割合が高い。

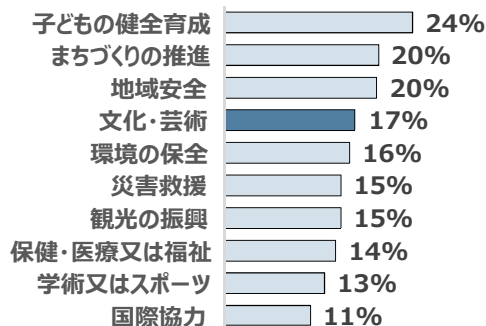
年代別プロボノ実施経験・実施意向



■ 経験したことがある ■ 経験したことがないが、今後経験してみたい

20代・30代、60代以上のニーズが高い

活動分野別プロボノ実施意向



全19の活動分野のなかで文化・芸術は4位

## 【文化団体】

- 経営基盤が脆弱であり、マネジメント能力の向上に向けた対策を行いたい。
- 社会との接点を持ちたい。客観的な視点を組織に持ち込みたい。
- 組織体力的に定常的には持ちづらい機能へのサポートが欲しい。  
（法務・会計、外国語会話・翻訳、ファンドレイジング・会員・顧客管理、調査設計・分析、人事・労務管理等）

## アートプロボノを促進するための課題と本事業での実施内容

## 課題①：

- そもそもプロボノの活動が文化団体に知られていない。
- プロボノワーカーや文化団体の双方が出会う機会・話す機会が乏しい。
  - アートプロボノ活動を周知する公開セミナーを実施（2017年12月12日開催）
  - 文化団体やアートに興味がある方に向けWeb媒体などで情報発信
  - プロボノワーカーや文化団体及びプロボノを促進する中間支援団体が一同に会し、それぞれが対話できるイベントを実施（2018年1月20日開催）

## 課題②：

- 文化団体側にプロボノワーカーが提供するサービス・情報漏洩の品質に不安がある。
- プロボノワーカー、文化団体ともにアートプロボノを行うにあたっての心構え・最低限の知識を身につけておきたい。
  - 上記イベントにおいて、文化団体向けに受け入れるべき専門人材についての考え方をレクチャー
  - アートプロボノの実践・受け入れを具体的に検討しているワーカー・団体向けの研修を実施
  - 双方が守るべきガイドラインを策定

## 課題③：

- 継続的にアートプロボノを浸透させるための仕組みづくりが必要
  - 成功事例の積み上げと、働き方改革、ダイバーシティ推進、イノベーション創出、CSR等に関心のある企業等への価値の普及